

第3章第1節（史跡松江城の調査成果と整備の概要について）の要点

（１）史料調査、発掘調査等の調査成果

➤近世城郭の松江城は、天守、石垣など現存する遺構や発掘調査だけでなく、文献史料や絵図など江戸時代の史資料のほか、明治時代初頭の古写真から往時の姿を探ることができる点に特徴がある。（第3章 p.3）

● 史料調査、発掘調査等の調査成果に基づく近世城郭・松江城の様相（第3章 p.25）

➤松江藩の領主は、堀尾家、京極家、松平家と替わる中、城郭内を描いた絵図から、堀尾期の縄張りが江戸時代を通じて松江城の基本構造となっていることがわかる。 ➤資料 2-1 参照

➤発掘調査においては、本丸、二之丸、外曲輪（二之丸下ノ段）から堀尾期の遺物が出土し、考古学的にも松江城の主要曲輪が堀尾期に機能していたことがわかる。 ➤資料 2-2 参照

➤松平期のうち17世紀後半以降については、文献史料や絵図から、松江城の城郭施設の配置、登城道・城内通路のルートなど松江城の城郭構造の様相を明らかにできる。 ➤資料 2-1 参照

（２）過年度計画における整備方針と整備の概要

➤松江城は昭和9年（1934）に史跡に指定されて以降、昭和45年（1970）に「史跡松江城環境整備5ヵ年計画」を、平成5年（1993）11月には「史跡松江城環境整備指針」を策定して、史跡整備が進められてきた。（第3章 p.26）

● 史跡松江城環境整備5ヵ年計画（昭和45年（1970）策定）（第3章 p.26～28）

➤歴史的考証と現地調査にもとづいて、17世紀末を復元の年次とし、主として建造物遺構跡地の復元ならびに堀川の浚渫を行うとする整備の方針。

● 史跡松江城環境整備指針（平成5年（1993）5月策定）（第3章 p.28～44）

➤①歴史的・文化的資源である貴重な文化財としての位置づけ、②松江市の都市構造の核としての位置づけ、③様々な都市機能を有する空間としての位置づけの3つに整理して定めた、城内すべてに共通する整備指針と城内の地区ごとの整備指針。

● 史跡松江城保存活用計画（昭和45年（1970）策定）（第3章 p.45～46）

➤前述の「史跡松江城環境整備指針」を引き継ぐ形で策定された史跡としての保存活用計画。史跡松江城の特性や地区区分は「史跡松江城環境整備指針」を踏襲。